

平成25年度広島・愛媛交流会議議事録

日 時 平成26年2月12日(水)14:30～15:45

場 所 グランドプリンスホテル広島

出席者(敬称略)

愛媛県知事 中 村 時 広

広島県知事 湯 崎 英 彦

愛媛県商工会議所連合会会頭 森 田 浩 治

広島県商工会議所連合会会頭 深 山 英 樹

1 開 会

【田邊審議官】

広島・愛媛交流会議を開催いたします。

私は、本日の会議の進行を務めます広島県経営戦略審議官の田邊でございます。どうぞよろしくお願ひします。

それでは、まず開会に当たりまして、湯崎広島県知事がごあいさつを申し上げます。

2 開会あいさつ

【湯崎知事】

本日は大変お忙しい中、また大変寒い中、中村知事、そして森田会頭、深山会頭、ご出席をいただきまして心から御礼を申し上げます。ありがとうございます。愛媛県の商工会議所連合会の森田会頭が今回からご参加をいただくということで、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、今年は瀬戸内海が国立公園に指定をされて80年を迎える年でございます。瀬戸内の各県においては相互に連携をしながら、この瀬戸内の自然や歴史、また文化、あるいは農林水産物、食べ物といった宝を掘り起こしてつなげていって、それを世界に発信することによって瀬戸内海の認知度とブランド力を高めていく。そして交流人口を拡大して住民が主体の豊かな地域づくりを進めていくということが、ますます重要になっていくのではないか思っているところであります。

こうした中で平成23年度の交流会議において、中村知事のほうからご提案をいただきまして、大・島博覧会をやろうと、そしてそれが今般愛媛県と広島県両県の協力の下で「瀬戸内しまのわ2014」として結実をすることとなりまして、いよいよ来月の21日からこの「瀬戸内しまのわ2014」が始まるというところに至っております。

瀬戸内らしい観光資源を活かした、季節ごとの多彩なイベントが、3期の季節にわたって、いよいよスタートするわけでございます。たくさんの皆様にご参加をいただきまして、瀬戸内の魅力を本当に十分に、存分に満喫していただきたいと思っております。

さらに両県を繋ぐしまなみ海道を舞台といたしまして、この瀬戸内がサイクリングの聖地として世界的に認知をされるということを期待しておりますが、そのための大きな契機になると思いますサイクリング大会も、この中で計画をされております。これの成功に向けても一致協力して進めたいと思っております。

本日は、この瀬戸内の風景に囲まれた中で、瀬戸内全体の魅力の向上と情報発信の強化、また観光交流の拡大による地域の活性化といった、両県に共通いたします課題について議論を交わすことができれば、大変幸いに思っております。今後の両県の発展や瀬戸内ブランドの強化に向けまして、連携を深めてまいりたいと思っておりますので、そのためにも忌憚のないご意見を賜ればありがたいと思っております。

今日の会議が大変実り多きものになりますように祈念いたしまして、開会に当たってのごあいさつに代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【田邊審議官】

ありがとうございました。それでは、今回始めて参加いただきました愛媛県商工会議所連合会の森田会頭に一言ごあいさつをいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

【森田会頭】

ご紹介いただきました森田でございます。昨年11月に、白石会頭の後を受けて愛媛県商工会議所連合会の会頭に就任させていただきました。両県の交流、連携が一層活発になりますよう、そして両県がますます発展しますように私としても力になってまいりますので、どうかよろしくお願ひします。

【田邊審議官】

ありがとうございました。

本日、皆様の机の上には瀬戸内の柑橘を使用しました、オリジナルティーの「陽海（ひなみ）」と瀬戸内 広島レモンケーキ「レモンの故郷」を用意しております。

陽海は大崎上島の清見オレンジとレモンの葉を素材に使ったハーブティーでありまして、瀬戸内ブランド認定商品として認定をされているものであります。また、レモンケーキは広島県内のレモン産地であります大崎下島のレモンのピールと果汁が使われております。皆様には会議の進行と合わせまして、ぜひ瀬戸内の柑橘を満喫していただけたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

それでは、お手元の次第に沿って議論をしていただきます。協議につきましては湯崎知事に進行をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

3 意見交換

(1) 「瀬戸内しまのわ 2014」開催に向けた取組の推進等について

○ 「瀬戸内しまのわ 2014」について

【湯崎知事】

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、最初の議題に早速入りたいと思います。「瀬戸内しまのわ 2014」の開催に向けました取組みの推進等につきまして、まず中村知事からお願いします。

【中村知事】

今日はこうした機会を準備していただきまして、誠にありがとうございました。まず、「瀬戸内しまのわ 2014」について少し述べてみたいと思います。

湯崎知事におかれましては、就任直後から非常に大きな視野で瀬戸内海を捉えて、「瀬戸内 海の道構想」というプランというものを投げかけられて、我々も含めた瀬戸内に隣接する各県と一緒にどうかという呼びかけをされており、非常に賛同するところ大でありまして、ぜひこれは一緒にやらせていただきたいなと感じました。湯崎知事にリーダーシップを取っていただきまして、一番ご苦勞をかけていると思います。

私はそこまで大きなプランではなかったのですが、できれば広島県さんと一緒になって地理的なハンディを持っているところに光を当てたいなという思いが強く、島にスポットライトを当てたイベントを両県でできないかなと思っておりました。

そもそも松山市長の仕事をさせていただいたときに、合併をしたところが島しょ部だったので、非常に疲弊をしまして沈滞ムードが漂っていたので、そこで活気づけるために行ったのが松山島博覧会というイベントだったんです。別に大きなお金を使って箱物を作るわけではなくて、ありのままの島の文化であるとか、伝統行事であるとか、食であるとか、こういったものを磨いて発信することは、陸地部に住む方から見ればそれは全て非日常の空間、体験であって、大変な価値を持つんじゃないかと。ですから、こういうブラッシュアップとつなぎ合わせとPRによって集客をしていこうという取組みだったのですが、県の仕事をさせていただいてそれを思い起こしまして、広島と愛媛の島も含めて、大々的にやったら島の活気につながるんじゃないかなということを期待していたところです。

そういう中で「やろう！」というような空気ができたことを本当に感謝を申し上げたいと思います。ただ、このイベントの大切なところというのは、恐らく湯崎知事も同感していただけると思うのですが、島民の皆さんに主役意識を持っていただけるかどうかにかかっているんだろうと。行政主体の住民参加ではやらされ感と責任感の希薄さが伴いますので、こんなチャンスを生かさないでどうするんだという島の皆さんの主役感というものが生まれたときに、これは松山の島博もそうだったんですが、空気が変わって訪れた方々に伝わる思いも全然違ったものになっていくということ

感じたので、そういったことを広島県の現場の皆さんと愛媛県の現場の皆さん、よくよく話し合いながら住民の皆さんに投げかけてきたところでございます。

愛媛側では、民間企画イベントが67件生まれておりまして、共通のアドバイザーをもって広島側、愛媛側、いろいろなアドバイスをいただきながら、その組み立てを今しているところでありますけれども、いずれにしても2県が本格的に一緒にやるというのは恐らく初めてのことなので、これがうまくかみ合ったらPR効果も飛躍的に大きくなってくると思うので、ぜひ湯崎知事としっかりと連携しながら、広島県の島しょ部、そして愛媛県の島しょ部、こちらに光が当たって活性化につながるようなイベントに仕上げていきたいなと思っております。

昨年の暮れにちょっと休日を取りまして、広島側の島に行ってみようかと思いましたが、家内と12月30日だったでしょうか、宮島にプライベートで1泊してきました。宮島はもうこの瀬戸内両県にまたがる島の中で一番の観光地で情報発信力も大きく強いところですから、たいへん賑わっておりました。愛媛側の島とは全く空気が違うところで、違うがゆえに楽しいなというものを感じました。

【湯崎知事】

ありがとうございます。中村知事のご経験からこの島博の住民主体の必要性を我々も強く認識をいたしまして、ご指摘のとおり大きな、ワントイムの大きなお金をかけたイベントということではなくて、住民の皆さんが自ら持っているものを発信していくということが今後の継続性にもつながっていくということを強く感じております。

今、各地でイベントの準備のためにいろんなことが行われていますが、島民の皆さん、女性の方々が集まって訪問客の皆さんに振る舞う食べ物を作ったりとか、そのための企画をやったりとか、あるいは中学生とかそういう子どもたちがお迎えのための準備をしたり、本当にただ単に観光客に来ていただくということだけではなくて、住民の皆さんが自分たちの持っているものの素晴らしさを再発見していくということがやはり随所に見られまして、これは本当に中村知事のご提案の素晴らしさ、これが現れているなど我々も大変感謝をしているところでございます。

開幕1カ月を迎えるところになりましたが、この住民の皆さんの努力というか、かいている汗、これがぜひ報われるようにPRをしっかりとしていかなければいけないと改めて感じておりまして、JRさんを含めていろんな皆さんにご協力いただくということになっておりますが、まず、やはり愛媛、広島両県のそれぞれの住民の皆さん、そして周辺地域、さらには九州や関西、そして関東というような形に、このイベント、この「しまのわ」のことをたくさん知っていただいて、より多くの皆さんに来ていただければと思っております。

そのためにも、長い期間でありますので、途中、途中の見直しを図りながら、そういうPRや誘客というのもしっかりと図っていかなければいけないと思っておりますし、いずれにおいても、この両県の協力、連携が非常に大事になってくると思っておりますので、メディアあるいはインターネットを通じての発信を含めて協力していきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

この議題につきまして、両会頭からもご意見を賜ればと思います。まず森田会頭からお願いしてよろしいでしょうか。

【森田会頭】

県境を越えて、そして海を隔てて島があつて、これだけ広域でしかも長期に多彩なイベントを盛り込んだというのは、初めてで、例がないと思うんですね。瀬戸内海の素晴らしさというのは本当によく昔から言われて、それを生かさないとといけないと。でも、全体が素晴らしい、部分的にも素晴らしい、けれど、なんかまとまった吸引力がないと言われていました。それをまとめ上げて、民間・住民主体といつてもなかなか行政のリーダーシップがないとできませんので、それをここまで持ってきたというのは両県知事の本当に強いリーダーシップがないとできなかつたと思います。民間でも、なかなかここまで出来ないをつくづく思つていまして、本当に敬意を表したいと思つています。

今は本当にグローバル化していて、富士山の世界遺産登録とか和食とか日本らしさとか、そういうものがまた注目されています。あらためてこの瀬戸内の宝も再発信して大きく結び付けて、起爆剤になると思つていますので、我々経済界も情報発信など行政と協力、連携して頑張つていきたいと思つています。

【湯崎知事】

ありがとうございます。深山会頭。

【深山会頭】

両知事から発案をいただいて、いよいよ実行まであと1カ月なんだと実感しています。県域、市域を越えた、海でつながつた広域エリアにおいてさまざまなイベントがこれから展開されるということで、これを瀬戸内海の魅力を発信する一つの起点として、私も経済界の一人としてできるだけ努力をしていきたいと思つております。

【湯崎知事】

ありがとうございます。「瀬戸内 海の道構想」についても言及いただきましたが、夢は大きく、でも最初の1歩はやっぱり着実なところからということで、この「しまのわ」も着実に、それにしても結構大きくなつていますが、西部では愛媛・広島両県、そして東部では岡山・香川両県、これがお互いに組み合わせりながら、さらに瀬戸内全体として森田会頭がおっしゃつたように発展していくことが大事だと思います。どうぞよろしくお願ひします。

これに関連いたしますが、瀬戸内しまなみ海道サイクリング大会、こちらはこのたび非常に大きな要素になるのではないかと思つております。これについて中村知事からお願いできればと思います。

○ 「瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会（仮称）」について

【中村知事】

先週まで数カ月間は一切自転車には乗らず、走るほうに専念していたのですが、無事にフルマラソンを終えましたので、今週から自転車に切り替えたいと思っております。本当にこの瀬戸内海に架かる3つのルートの中で、しまなみ海道の最大の魅力はやっぱり何と言っても唯一自転車専用道を持っているということにあるのかなど。これは広島県と愛媛県の共有の財産と言ってもいいと思うのですが、その景観から言って世界に発信できるコンテンツであるということをつくづく感じます。

これまで協働しながら、その可能性を探ってきたところですが、県を越えて、例えば案内表示であるとか、ブルーラインであるとか、いろいろなもので共通した事業展開も順調に進んでいる気がいたします。また、湯崎知事も一緒に走っていただいた昨年のプレ大会のときには、これに失敗すると今年はないなという断崖絶壁の心境で開催し、日本で初めて供用済みの自動車道を止めるということで、とにかく3時間で戻せという絶対的なハードルの高い条件を出されていた中、何とか2時間59分56秒で完了し、元に戻せたので、今年につなげることができたと思っています。

そのときに広島県の皆さんにも見ていただいて、両県で課題であるとか、改善点であるとか、いろいろと見えてきたような気がしますので、これをぜひ本番に生かして、世界的な大規模のサイクリング大会を実施することで「瀬戸内しまのわ2014」の総仕上げ、かつこれを機会にしまなみ海道を世界のサイクリストの聖地として位置付けるような1日になればと心から期待をしているところです。

それから、たまたまこの前、台湾に行く機会があったのですが、劉会長も当日出席されるそうですし、それから今、個人的にインドネシアとのつながりがあり、4月にインドネシアの方々が来られるので、これも巻き込んでいきたいと思います。そして、むしろ我々よりも広島県のほうが海外の都市とのいろんな交流が多く、ぜひそういったところにもお互い声をかけていくことができたかなと思っていますので、またよろしく願いいたします。

【湯崎知事】

ありがとうございます。昨年の10月20日のプレ大会では、本当に愛媛県の皆様に大変お世話になりました。プレ大会では愛媛県側だけで進めていただいたのですが、今度は両県にまたがる一大イベントになってまいります。ご指摘のようにいろいろな課題もありましたが、なんとかクリアしていく目途も付いてまいりましたし、世界に類を見ないサイクリストの聖地において、サイクリストにとっては夢のような大大会になっていくのではないかと私も期待をしております。

そして、これを世界に向けて発信していかなければいけないと思うわけですが、そのためにも今、中村知事からご指摘をいただきましたような他国、あるいは地域の誘客を図ることが非常に重要だと思います。今は両県の間でいろいろとご相談させていただいておりますが、これまでの交流がベースにある台湾、それからインドネシア、また韓国であるとか、そして今、実際にしまなみにたくさん来ていただ

いておられるオーストラリア、あるいは、もちろんサイクリングの本場であるヨーロッパ、特にフランス等、こういった国々からぜひたくさんの方々に参加をしていただきたいと思っております。

今回、やはり本道を止めるということで、地元の住民の皆様には大変なご負担をおかけするという事もあると思います。そのときに、どうしても地元の人は走ったら家に帰るということになって1日で終わってしまうのですが、インバウンドの外国から来るお客様は周辺に滞在をしていただければと思いますので、その他のいろいろなメニューも合わせてご提案をして、少し長く滞在をしていただいて、単に止めて大変だったなというだけじゃなくて、お客様が周辺をエンジョイしていただいた、それを地元も実感できるというような大会にできたら素晴らしいなと思っております。

そういったことも含めながらしっかりと準備を進めて、文字どおり世界に誇る大会にできればと思いますので、我々もちゃんと頑張りますのでよろしくお願ひします。

それでは、本件につきましても両会頭からお願いしたいと思ひます。まず、森田会頭お願ひします。

【森田会頭】

昨年のプレ大会が本当に大きな分岐点になりました。私もしまなみ海道をよく通るのですが、あの以前とあの後と意識が変わりました。サイクリストがものすごく土日に増えまして、走っているんですね。島の住民の方も随分刺激を受けていまして、そういう意味では本当にすごく可能性がある。今、どこへ行っても、瀬戸内サイクリング、しまなみサイクリング、必ずサイクリングがついているんですね。そのぐらいになっていますから、今度の大会が本当に世界のサイクリングの聖地になる決め球という気がしていますので、運営は大変ですが、大いに期待をしています。

【湯崎知事】

ありがとうございます。それでは、深山会頭。

【深山会頭】

今、森田会頭の言われたとおり、世界一のサイクリングロードと認知されるよう、ぜひとも成功させたい大会であります。イベント後の展開を話すのは少し早いかもしれませんが、今回の取り組みを踏まえて、毎年何らかの形で開催してほしい、開催したいという期待や要望の声も把握できるようにしたらよいのではないかと思っております。

そして、ナショナルサイクリングロードとして国の認定を受けますと、毎年開催される核となるイベント、こういったものも必要なのではないかと思っております。ぜひとも成功させたいと思っております。できるだけの協力をしてまいります。

(2) サイクリングを核とした観光振興について

○ 広域観光及びインバウンドの推進について

【湯崎知事】

ありがとうございます。それでは、今インバウンドについても既に出ておりますが、深山会頭からもナショナルサイクリングロードについてございましたので、インバウンドについて追加でありましたら中村知事。

【中村知事】

一つは、昨年、これまでは外国人向けの国が推奨するゴールデンルートと言えば、東京—京都—大阪ということでしたが、京都—広島—松山という新ゴールデンルートが国のほうでも提案されましたので、これは非常にいいタイミングだなと思っています。

やはり広島側には世界遺産の宮島もありますし、愛媛側には日本最古の道後温泉もありますので、そのあたりのお互いの持っている観光素材というものを組み合わせた商品化であるとか、ルート設定を生み出していく良い機会なのかなという感じもしています。

広島側は規模が大きいですから、既に例えば台湾であれば桃園空港との定期便が就航しています。松山側も昨年、10年かかったんですが、台湾にもう一つ松山空港という空港があって、台湾の松山空港から愛媛の松山空港へ同じ空港名を結ぶチャーター便を、ようやく許可が1回下りまして、飛ばすことができました。

これを受けて今年度からチャーター便の増加、それから定期チャーター便、それから定期便へとどんどん目指していく予定にしていますので、そうするとこの両県に、松山イン広島アウトと広島イン松山アウトとか、1～2年後にはそういった形も出来上がっていくのかなと思ひまして、まさにしまなみ海道を大いに生かせる条件が整ってくる感じがしています。

かつ尾道側にジャイアントストアの準備が行われていて、ホテルも完成すると聞いております。

【湯崎知事】

そうですね、間もなく。

【中村知事】

両側にそういった施設が整ってくるということは、お互い生かしやすい環境が整備されるということなので、こういった面でインバウンドにアプローチしやすい状況が生まれるということ踏まえて、取り組みを強化していきたいなと思っています。

【湯崎知事】

ありがとうございます。ぜひ、我々もこの松山―松山チャーター便の増加というのはご協力をしたいと思ひますし、チャイナエアラインも我々関係がありますので、働きかけていきたいと思ひます。そのことが結果として観光客の増加につながるのではないかという認識をしております。

さらに広島ではその他の国との定期便というのもたくさんありますので、そういったものも活用して、しまなみ海道あるいは松山、広島といったようなこの地域を楽しんでいただけるようにしたいと思ひます。そのためにいろんなPRもやっていかなければいけないと思ひますので、航空会社のみならず各国の旅行会社であるとか、そういうところもPRをしてまいりたいと思ひます。

それから、サイクリングという観点からは、さらにしまなみから北へ上っていくと、松江あるいは米子の方面もいろんな動きが今、ありますし、米子のほうでは大山がサイクリングコースとして確立しつつあるということで、そういういろんな可能性がある。また島根とも連携できればと思ひています。インバウンドについても、両会頭、追加でございましたら。

【森田会頭】

日本の観光戦略、成長戦略でも、2020年に2,000万人、さらに3,000万人という2倍、3倍のインバウンドの計画がありますので、やっぱり外国人のサイクリング熱というので可能性は随分あると思ひますが、愛媛県でもまだまだ外国人を受け入れる体制が不十分ではないかと思ひますので、経済界はひとつそういういろんな宿泊など、ソフト面を含めた受け入れ体制の整備についても、これから行政と一緒にやっていかなくてはと思ひています。

【深山会頭】

広域観光の推進のためには、観光地を点で捉えるのではなくて面で捉えた観光ルートの開発が必要だと言われております。例えば自動車道や造船などの製造現場を巡る産業観光でありますとか、漁業あるいは柑橘類の栽培を体験して民泊をするという体験型の民泊観光、あるいはご当地ブランドの食材を使った料理を満喫するグルメツアー等々テーマごとにルートを開発して紹介するというのもあるのではないかと思ひます。

それから細かい話ですが、せとうちサイクルーズパスは、非常に好評で、大変喜ばれているサービスであります。中国旅客船協会連合会がこういった外で持ち歩く紙質を、雨、水に濡れてもいいような紙質で作っておりますので、その辺も今後お願いしていただけたらと思ひます。

○ ナショナルサイクリングロード（仮称）認定制度の創設及び自転車通行料無料化に向けた取組について

【湯崎知事】

ありがとうございました。それでは、引き続き先ほど言及いただきましたナショナルサイクリングロード、それからしまなみの無料化について、私から発言させていただきます。先週 6 日、中村知事と国交省の太田大臣を訪問させていただきました。ナショナルサイクリングロードの創設と、自転車の通行料無料化をお願いにあがりました。

結果、非常に前向きなご回答をいただきまして、無料化の方は大臣から無料化に向けた調整をするようにということで指示がありましたし、ナショナルサイクリングロードの方は全国のこともあるだろうということで、そこも含めた検討をしたいという結果になりました。

これについては、自転車議連の方にも応援をいただいておりますが、引き続き、この無料化が本当に実現をするということと、ナショナルサイクリングロードの制定が具体的に実現するといくことを両県で連携をして進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

中村知事のほうから。

【中村知事】

まず、自転車の無料化については、広島と愛媛がタイアップして、ここずっと毎年のように声を上げ続けてきたことがようやく成就に至りそうな段階を迎えました。細部の詰めはこれからということで、時期の問題、それから民間も含めてどういう形にしていくのか、そういったことを最後に詰めて何とか今年中に実現にこぎつけていくことができたらと思っています。今、湯崎知事からお話がありましたとおり、国から前向きな返事をいただいたということでもありますから、これはもう最後の詰めの段階と言ってもいいのではなかろうかと思えます。

それからナショナルサイクリングロードについては、まさに湯崎知事からの提案で、私はついていった方ですが、非常に面白い提案だと思っていますので、ぜひ制度として創設できればと思います。国のほうも自転車の活用と価値に意識が向いてきたのかなと感じています。ですから、今は非常にいいタイミングかなと思いましたが、これは今言われたとおりしまなみ海道だけの問題ではなくて、国際的に国として出せる、ナショナルサイクリングロードを認定する制度をつくれれば、当然優先した整備、支援等が出てきますので、速度が加速していくと思うんですね。

特にナショナルロードということになりますと、やっぱりそれなりの構えが必要になってきますので、この制度ができて整備が進むということにつながると確信していますので、ぜひ実現に向けて、また、無料化と同様に粘り強く一緒に行きたいと思っています。

【湯崎知事】

ありがとうございます。両会頭のほうから。

【森田会頭】

ものすごく素晴らしい発想だと思います。ナショナルとまでは行かなくても、愛媛県は中村知事の自転車施策の展開が速いので、経済界がついていってないところがあるんですが、「愛媛マルゴト自転車道」という方針で整備が進められています。来月、九つの商工会議所の連絡会、ミーティングがありますので、そのテーマのひとつ、この県域全部を含めたサイクリングロードの整備等、深山会頭がさっきおっしゃった産業観光関係を含めた、そんなことにもつなげられないかというようなことも少し話し合ってみたいと思います。

【湯崎知事】

ありがとうございます。深山会頭お願いします。

【深山会頭】

多くのサイクリストを呼びこんで長期に滞在してもらおうということを考えた場合に、宿泊施設の整備が必要なのではないか。しまなみ沿線での宿泊施設はやはり不足しているのではないか。例えば既存のドライブインやサービスエリア、島の空き家を活用するというアイデアもあるのではないか。こういうふうな、サイクリストに対応した施設整備を促進するための補助金もあるとよいのではないかという意見を会員からもらっております。

それから、無料化の費用の補てん策として、企業からの広告協賛等もあるんですが、個人の、例えば、しまなみサイクルクラブのような会員サービスを提供するようなクラブをつくって、個人の会員を募るというのも一策ではないかと思います。

【湯崎知事】

この無料化あるいはナショナルサイクリングロードについては、いろいろな工夫とか知恵を出していく必要があると思います。

一つは、まさに今回、国にいろいろお願いをして、国の方でも負担をし、そしてまた地元も負担をし、無料化を図っていくという方向になっておりますが、もちろん行政、それから地元の経済界、そしてやはり利用者、これが皆協力をして盛り上げていく、盛り立てていくということが非常に大事なことではないかと思います。

そういう意味で、今のサイクリングクラブというアイデアも、例えばリストバンドを付けて、皆さん、私はこういうものをサポートしていますよ、みたいなものがありますが、リストバンドがいいかどうかは別にして、しまなみ海道のサイクリングの整備なり、この発展に私は貢献していますよということに皆さんが誇りを持てるというか、誇りを持ってやっていただけるような、そんな仕組に考えていく必要があると思いますし、そこにいろいろなスポーツ関係であるとか、あるいは飲み物であるとか、そういったような企業さんがメリットを見出して、このスポンサーをしていただける

ということも非常にメリットがある。

最終的には皆さんがメリットを感じながら、このしまなみ海道ないしはナショナルサイクリングロードに誇りを持って運営していく、あるいは参画していくということが重要であると思っております。

今後、そういった点も詰めながら具体化を図る必要があると思えますし、また、宿泊施設についても、ご指摘のとおりでありまして、先ほどのインバウンドのお話もそうですが、ただ走るだけだとなかなか経済的なメリットもないのではないかという声があるのも事実だと思います。いかに宿泊をしていただくか。宿泊をすると観光消費額というのが大きく増えるということも、統計的に明らかな経験上の値ですから、それを促す方策を考えていかなければならないと思えます。そして先ほどのインバウンドの中にもありましたが、そういったことを実現するためにもインバウンド、これを活用していく。

ナショナルサイクリングロードというのは、日本という国においてサイクリングが盛んにできるんだよとアピールするためにも、しまなみもちろん重要ですけど、しまなみ以外にもいろいろな選択肢があるということ。我々としてはどんな選択肢が来てもしまなみが一番だと、自信を持ってやっていけるのではないかと思っております。関係の皆さん、ぜひまた協力しながら進めていけたらと思っております。

【中村知事】

先ほど湯崎知事から島根の動きもあると。実は高知も四万十沿いのサイクリングを提供したいと、尾崎知事の方から話があります。愛媛県内も全部つなげていく予定にしているのですが、佐田岬半島なんかすごくいいコースなんですね。

ですから、ナショナルサイクリングロードで認知されると、それ以外の二次情報を提供することによって、全体が、何度もリピーターとして来やすい環境が生まれてくるのかなというところにも期待しているところです。

そんなことを県内の首長さんたちに投げかけたら、結構皆さん、県内の町長や市長さんは乗りがよくて、今 20 人の首長さんがいますが、今のところ 17 人がスポーツロードタイプの自転車を、年齢最高齢 73 歳ですけど、買われて乗るようになりまして、県議会議員さんも 6 割ぐらいの方が購入されたということなので、またぜひそんな動きも増えていったら、広島県と愛媛県で協働したサイクルイベントをやってもいいかなという感じがしています。

【湯崎知事】

そうですね。広島県内では、なかなか各首長さんがそこまで進んでいなくて、何人かはお持ちなのですが、サイクリングロードを自分たちのところでもやってくれという首長さんに、「乗っているのですか」と言うと、「いや、乗ってない」と言うので、「乗ってくださいよ」と言っています。我々もそういうふうを広げていければと思います。

【深山会頭】

先程、松江と高知の話で、ある外国人のサイクリストが、外国のサイクリストに、南北の縦のラインに非常に魅力があると言っておられ、長期に滞在してくださいました。

それともう一つ、しまなみから島、各島にフェリーで渡っていく、この選択肢もある。こういう多様性といいますか、その元がしまなみ海道。こういうコンセプトが非常に松江と縦の幅がある。

四国一周というのも、台湾一周より一回り小さいのか、サイクリストにとっては非常に魅力的だそうです。

【中村知事】

松山市長のときだったのですが、松江市、それから尾道市、今治市、松山市、高知市で文学のルートというのをつくったことがあるんですよ。それぞれ著名な文化人がかつていらっしやって小説が残っています。文学の道ルートという縦ルートをやろうという。まだ残っているのであれば、そういうのもリンクさせたら面白いかもしれません。

【湯崎知事】

ありがとうございます。本当に大きな可能性を秘めた、サイクリングを軸としたさまざまな取組みだと思います。

(3) 瀬戸内ブランドの確立に向けた取組の推進について

【湯崎知事】

それでは、次に瀬戸内ブランドの確立に向けた取組みについて、私の方から、まず発言させていただきたいと思います。

この「しまのわ」もその一環になるわけですが、瀬戸内海を共有しております7県で「瀬戸内ブランド推進連合」を昨年4月に設立させていただきまして、これまで瀬戸内ブランドの推進を中心にさまざまな取組みを始めさせていただきました。また、先週、児島のほうで瀬戸内ブランドを支援して、応援してもらえる企業の皆様に集まっていただいて、瀬戸内ブランドサポーター交流会をやらせていただきました。いろんな商品を通じて瀬戸内についての認知を上げていくという活動も効果的だと思いますので、今後もいろいろな商品だとかサービスの開発、またそれをベースに、この地域間の交流だとか、あるいは業種間の交流を行いたい。先般、交流会をやったときも非常に参考になったという声をたくさんいただきました。某飲料会社さんがほかの飲料会社さんのやっていることを見て、「そんなやり方があるのか」と、そんな感想を持たれて、我々はもっと頑張らなきゃという声も聞かれましたので、お互いにまた盛り上がっていかれたらと思っております。

また、ブランド推進連合では、サイクリングはもちろんそうですし、食であるとかクルーズであるとか、瀬戸内の楽しみというのはいろいろありますので、そういったことを軸に、例えばレストランのフェアとか、あるいはシェフの瀬戸内の食材を使った料理の紹介、それでまた盛り上げていくということですが、そういうことをやっております。

平成 26 年はまさに 80 周年ということもあって、非常に重要な年になると思いますので、各県のブランド戦略がもちろんあると思いますが、瀬戸内としてのブランド推進、これもぜひさらに力を入れて進めさせていただければと思いますのでご協力をお願いできればと思います。

それでは、中村知事の方から。

【中村知事】

瀬戸内海というものに対するイメージや知名度はかなり良質で高いと思っています。ですから、もちろん各県ごとのブランド戦略というのが今までベースになっていますが、それを瀬戸内としてくくって、それぞれが一斉にPRするというのは効果的だと思っています。

例えば食を考えても、意外と各県それぞれ個性豊かでして、あまり重ならないんです。例えば広島と愛媛、両方とも柑橘がありますが、多分採れている種類というのは違うんですね。海の幸と言えば、広島というのはすぐ浮かぶのはカキだけど、愛媛でカキを作っているかといったらそんなに作ってなくて、愛媛はどちらかというと養殖のタイとかが得意。香川へ行ったらうどん、岡山へ行ったらままかりやマスカットが出てくる。それぞれうまくバランスが取れているので、くくりやすいのじゃないかなという気がします。その辺はぜひ連携しながらブランドの確立をしていきたいなと思っています。

【湯崎知事】

ありがとうございます。それでは森田会頭。

【森田会頭】

あまり詳しくはないですが、やっぱり食べ物と瀬戸内の景観全般を生かして、クルーズとか船のいろいろな企画を考えてみたらよいのではないかと思います。

【湯崎知事】

ありがとうございます。では、深山会頭。

【深山会頭】

このように7県が一体となって連携していくのは非常に意義あることだと思います。ただ少々PR不足の点が否めないのではないかと思います。広島商工会議所のホームページにおきましても、瀬戸内ブランドサポーター制度の内容を紹介しているのですが、これからもさまざまな機会を利用してPRしていきたいと思っています。

【湯崎知事】

まだ、確かなかなか浸透してないという部分があると思っております、これは事務局を今、広島県がやっているのですが、広島県の不徳のいたすところです。例えば、これはコンセプトといたしましては、北海道あるいは九州が分かりやすいと思いますが、北海道だと例えば摩周湖があるとか、流氷があるとか、旭山動物園があるとか、札幌ラーメンがある、あるいは函館があるというように、北海道に行くにあそこそこここここに行ってみようっていうような連想がすぐに湧いてくるわけですが、瀬戸内の場合には、各県がやはり比較的ばらばらで、道後温泉なら道後温泉、宮島なら宮島となる。

最近では宮島と道後が比較的結びついてはいますが、例えば神社で言えば、宮島があつて大山祇神社があつて金毘羅があるというように日本を代表する非常に重要な神社がここにあるわけです。でも、皆さん、連想はしないという状況にあります。これもやはり連想してもらうことによって、この地域を対流していただくというか、長期に、2～3日楽しんでいただく。ここがやはり究極の目的だと思います。

それがインバウンド、外国人の方を誘客していく上で、まとまった魅力として大事なところだと思っております。これは七つの県にわたることなので、なかなか大変ですが、ぜひまた経済界を含めてこういう活動に触れてアピールしていきたいと思しますので、よろしく願います。

その他、本件についてはよろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは大体用意しておりました議題は以上でございます。

(4) PR事項

【湯崎知事】

続いて両県からのPRに移りたいと思っておりますので、まず中村知事のほうからお願いできればと思います。

【中村知事】

今日は二つだけPRさせてもらいたいんですが、今から8年前に秋田県のわらび座というところと愛媛県の民間会社が連携して坊っちゃん劇場という、ちょっと地方都市ではまれな劇場ができました。365日とは言いませんが、毎年270公演ぐらいを行っている本格的なミュージカル劇場でして、今、年間8万人ぐらいの方々が毎年、毎年、足を運んでいただけるような状況まで育ってきました。

今は平賀源内をモチーフとしたミュージカルを行っています。これは日本で初めてエレキテルという電気の発生源を作った人物ですから、例えば電力会社の人は絶対見なきゃいけないとか無理やりこじつけてPRしていますが、大変面白い出来栄えになっています。

4月からは道後温泉を、今の道後温泉の建物を作った伊佐庭如矢という方をモチーフとした新たなミュージカルが4月からスタートします。また、「瀬戸内しまのわ」ということを鑑みてちょっと依頼をしまして、11月からは、今までの8作の中で広島でも上演された、集客の高かった鶴姫伝説。これは愛媛と広島、両方にかかわる物語で、今年の後半はこれを再演する予定にしております。これは本当に物語の舞台が瀬戸内のど真ん中で広島側とも愛媛側とも歴史の関わり合いがあるミュージカルですので、またぜひお越しいただけたらと思っております。

それからもう一つは、これは四国側の話になりますが、弘法大師、空海が四国霊場を開創して1200年という年が、実は今年に当たります。瀬戸内国立公園80年と重なりますが、四国各県で空海に関わるいろんな催しが行われていくと思います。愛媛県では西予市という所に歴史文化博物館がありまして、ここで半年間にわたって弘法大師空海展などを実施しております。

ここはちょっと特別な展示を常設しています。このパンフレットになりますが、日本でも本当にトップの和紙人形作家の内海さんという方に直接依頼して、空海の和紙人形のシリーズを無料で貸与していただいて、展示しています。これは、一体の大きさが40cmぐらいの人形が370体あるんです。

この370体を並べることによって、空海前の日本の風景、空海誕生、四国での修行時代、最澄と空海が遣唐船に乗って長安の都に渡った、長安の時代の風景、それから日本に帰ってきて布教していく、高野山を開く、そして天に昇っていくという一生を描いたシリーズになっているんです。圧巻の作品を常設展示していますので、ぜひ弘法大師ゆかりの四国に、広島からも大勢来ていただけたらと思います。

どうもありがとうございました。

【湯崎知事】

ありがとうございます。また非常に楽しみな催し物で、私もぜひ機会をつくって行きたいと思います。

それでは、広島側からのPRですが、まず「OC-1選手権」についてご紹介をさせていただきたいと思います。後ろにポスターがございますが、「OC-1選手権」というのを今やっております。これは「おいしい！広島県」プロモーションの一環として進めているものですが、この冬の間、広島のお食、これもいろいろ知られてないものがたくさんあると思っております。各地いろんな特産の食べ物があるのですが、それを皆さんに出品していただきまして、それぞれの地に行って食べていただく。そして投票をしていただいて競争するので「OC-1選手権」と言っています。18の市町が持ち出して行ってまして2月いっぱい、2月28日まで投票を受け付けておりますので、ぜひ愛媛からも来ていただいて現場で食べていただくということを楽しんでいただければと思います。

そして、これは投票いただくと、投票いただいた方全員に県内の観光施設の割引券など、18市町が参加しているので、18個の特典をプレゼントしています。ぜひよろしくお願いをいたします。

それから、関西・中四国の B-1 グランプリの大会が府中で開催されます。このパンフレット、チラシにあるとおりでありますけど、3月22日と23日の2日間にわたって開催されます。

これは関西・中四国ですけども、15の団体が出展をしていただきますし、他の地方からも5団体が参加していただけるということでありまして、愛媛県からも今治焼豚玉子飯、これが出展されるということでもありますので、ぜひ府中にて今治焼豚玉子飯を愛媛の皆さんに食べていただきたいなど。もちろん府中は府中焼きというのがありますので、これは OC-1 選手権にも出ていますけれども、召し上がっていただきたい。広島のお好み焼きですけど、肉がミンチでして、ちょっとぱりぱりとした食感なのが特徴であります。

府中は昔、備後の国府が置かれたところで、大変いいところでもありますので、その府中もお楽しみいただけたらと思います。

【中村知事】

今治の焼豚玉子飯は、去年は全国で4位に。

【森田会頭】

あれはベストテンに入りますね。

【湯崎知事】

カキとお好み焼きの岡山県のカキオコとか、我々にはいろいろ悔しいものがありますが、岡山は B-1 ですごくいい成績を取っていますから、たくさん参加いただくと、それぞれ楽しんでいただけるのではないかと思います。

【中村知事】

そうなんですよ。

【湯崎知事】

ここで勝ち上がると全国的にも高い効果があると思っています。
どうもありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。

【田邊審議官】

ありがとうございました。

以上で本日予定しておりました議題を全て終了いたしました。ありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、中村愛媛県知事からごあいさつをいただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

4 閉会あいさつ

【中村知事】

今日は広島・愛媛交流会議，準備をしていただきまして本当にありがとうございました。

この交流会議があればこそ連携した事業をやろうという空気も醸成されていったのではないかなと思いますし，今日はまた経済界から深山会頭さん，森田会頭さんのご出席をいただきましたので，ただ単に知事二人で話すよりよほど広がりや厚みのある中身になったのではないかと思っています。

ともすればこういった交流会議は何となく回数を数えるだけということに陥りやすいのですが，広島と愛媛のこの交流会議は全然それとは別物で，これをきっかけに事業が具体化していくという大変実のある会議ではないかと思っています。

広島県と愛媛県，それぞれの歴史や特色がありますので，それをお互いが認め合いながら，立てながら，気を遣いながら一つの目的に向かって職員の皆さんも話し合いを進めていくというその過程にとっても価値があると思いますし，きっとこの力が「瀬戸内しまのわ 2014」の集客と活性化に結びついていくことを信じております。

この1年間，一生懸命私も頑張りますので，湯崎知事，そして深山会頭，森田会頭，どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

5 閉 会

【田邊審議官】

どうもありがとうございました。

それでは以上をもちまして，本日の交流会議を終了させていただきます。本当にありがとうございました。